

開催日時	令和5年12月15日(金) 19時00分～20時40分
開催場所	web
出席者	理事、監事、各部部長、委員長
欠席者	
記録者	中川
議題1	2024年度予算編成方針について
<p><b>【内容】</b>            大目標の内の、2資質の向上、5士会事業・予算の検討について、臨時財務委員会を実施し、財務委員会の活動の方向性を検討した。            提言内容</p> <p><b>【財務】</b>            ・予算をしっかりと検討しないといけない理由            在会者がほとんど増えていない。            休会者が多い、            会費収入もコロナ禍で減額したとき以外はほとんど変わっていない。            維持ならまだだが、下がる可能性もある。            退会者毎年200名前後。            休会理由、出産・育児が多く、その次に会費負担が大きい、その他経済の問題によるところが大きい。            メリットを感じていただけるのかが大きいと感じている。            それらを考えて予算を検討しなければならない。            士会員の会費負担軽減、研修事業への対策が必要。</p> <p>・本年度目指すもの            費用対効果の検証            予算配分の検討            会費額の検討</p> <p>・収入と支出            2022年はコロナ禍の影響が残っているのは承知しているが収入の8割程度で事業を実施している。            可能性として今後8割で事業が出来れば会費軽減できる可能性があると考える。</p> <p>・提言を踏まえた2024年度予算編成方針(案)            会費収入を現行会費の8割で算出した事務局が提示する2024年度収入予測額での予算を考える。            各部委員会は、2022、2023年度の実績から予算を作成する。            予算執行率が低い部署は2023年予算の80%を考慮。新規事業に関しては考慮する。            *現状は昨年度予算を基準として作成される場合が多い。            上記の目標:総収入の8割の支出事業を収められる可能性がある。            2024年度予算はおよそ実施可能性を見る(8000円ダメなら9000円)            担当理事と相談。</p> <p><b>【研修会事業の充実と積極的な活用】</b>            年間の研修を統括する組織の設置。            基本的理学療法に関する研修を継続的かつ網羅的に取り組む。            実技研修の回数を増加する。            県外、非会員からの参加料収入を積極的に取り組む。            上記の目標;研修事業への対策→会員のニード対応、会員数維持・増加</p> <p>・今後のスケジュールと方針            2024年予算は基本的理学療法に関する研修会の実施を盛り込む。            来年度から来年度前期までに研修活動を統括する部門案を検討。            →2025年度研修事業は統括部門案を参考に各部門が研修会を実施する(各部の研修実施の自由度を低くすることは目的ではなく、研修内容・時期の調整が主目的)</p>	

研修会增加に伴う予算増は研修会収入。

・上記内容をふまえた予算フォーマットを作成した。

・2024年度の総会で会費及び予算方針説明(会費減額とそれに伴う事業方針)

来年、2025年度予算作成(最終的な会費案作成)

2025年度4月会費変更(案)提出

2026年度4月新会費実施

<質疑からの検討課題>

支出に関しても検討する。会議費、講師費用など実態に合っていないものがある  
交通費も今まではリッター換算であったが、ハイブリッドカー、電気自動車などもある  
ため、Km換算に変更したいと思っている。

【手続きについて】

参加費(収入)は予算に上乗せしてよい。

2022年度の実績の8割がダメなら、2023年度の予算案の8割。

\* フォーマットの説明あり。

研修会が4時間を超える場合は2回の計上が出来るように検討している。

旅費交通費は日当費、交通費にあたります。

<質疑からの検討課題>

・士会だよりの作成やデータを作り拘束されているものに対する対価の要望。

算定の基準をどうするか。実際にどういう作業に対価が必要か検討していきたい。

・卒後教育部など支部との連携会議は決まっていない。今の所、職能部は削除と考  
えている。

支部の方の研修会も県外は受けてほしいが、方法などはこれから調整する。

議題2 | 学術局の在り方について提案(議題1から継続議題)

成田理事

・現状

6つの部がある。

カリキュラムコードについて2021、2022年を比較すると偏りがなくなっているが、  
常に気に掛ける必要がある。

・課題

研修部と理学療法講習部の働きが似通ってきている。

学術局以外にも研修を企画、運営しており、管理が出来ていない。

・提案

学術局にて年間の研修本数、領域などをコントロールしてはどうか

カリキュラムコードを意識したうえで、学術局主導で支部を巻き込んだ研修の企画を  
してはどうか。

今やっているところをいったん集約して何が足りないのかを明確にしたうえで、足りな  
いところ考えていきたい。

各部が自由に研修会を企画できなくなるという事ではない。

基本的理学療法というのをどの範囲が基本的なのか、会員にニーズというのを把握し  
きれていないので、いくつか企画していかないといけないと思っている。

<質疑からの課題>

・22年年度、23年度のカリキュラムコードをオープンにする(2023年度は集計中)

・予算を考える時の考え方として。研修会(座学)はリモートという方針のまま。

・実技を増やすというのがあります。

・子育て世代が出ていくのが難しいという意見があったり、どの曜日が参加しやすいと  
か。

参考になるアンケートがいくつかある。

・基本的な理学療法とはどのようなことか。

→登録理学療法をとる協会が出しているのが網羅されているかなと考える。

そうでない部分もあるが、新人の2、3年目にこういうテクニカルを持っていたらいいよ  
ねというものと考えている。

・次年度支部の会員交流会を復活させたいとこがあり、進めてもらってよい。

議事3 | その他、報告事項

・啓発部全体的に規模が縮小している。他の部と重なっているところがあると思うので、  
支部で負担があるところは啓発部で請け負いたいと思っている

災害対策部は連携会議を行わない。

・第35回兵庫県理学療法学会

ポスターが出来ました。

テーマ:視野を広げる、視座を高める(マルチモビリティを見据えて)

場所:アクリエひめじ

on demandでも開催。

演題募集2023年3月1日

・第63回近畿理学療法学会

2月3日4日

滋賀県

琵琶湖ホテル、大津市民会館

・社会局職能部

2023/1/21開催

齊藤協会長といろいろお話をしてもらいたいと思う。

「理学療法士の未来へ向けて齊藤協会長と話そう」

グループワークを中心として考えている。

・研修会を企画してもらっていると思うが、ホームページの事業予定を掲載していただき、いろんな方に見てもらえるようにお願いします。

次回の予定	日時:
日時・場所	場所:
今後の予定	